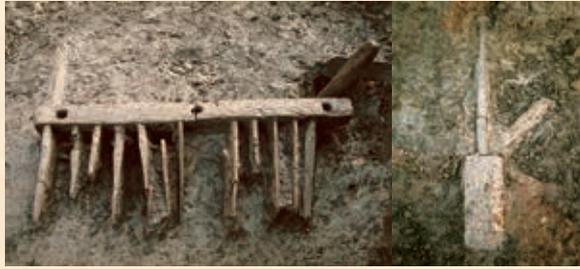


木製品が語る行田の古代

市内の遺跡を発掘すると、土器、瓦、石器などがよく出土しますが、木製品や紙、骨などはめったに出土しません。なぜなら、木や紙、骨などは、土に埋もれて年月がたつと、腐ってなくなってしまうからです。

ところが、星宮地区などの低湿地に存在する遺跡からは、木製品や骨などが良い状態でまとまって出土することがあります。木や骨は、水漬けになって空気と遮断された状態で土の中に埋もれていれば、数千年間も腐らずに残ることがあるのです。

写真左は中里地区から上池守地区に広がる池守遺跡の沼地跡から出土した古墳時代（約1千400年前）の馬鍬（まぐわ）です。古墳時代の馬鍬は県内では他に1点しか出土例がなく、このように刃部が細く加工された馬鍬となると、国内でも他に1点しか出土例がない貴重な木製品です。池守遺跡の沼地跡からは、この馬鍬以外にも鋤（すき）、鍬（おほし）、大足（おほし）（田下駄）、竖杵（たてぎね）、



池守遺跡から出土した馬鍬（写真左）と鋤（写真右）

横槌（よこづち）などの農具、国内最古の「中筒受け」と呼ばれる機織り機の部品、緯越・緯打具などの紡織具、おの柄などの工具、曲物、皿、椀などの容器、鞍、鍔（あぶみ）などの馬具、はし、腰掛、下駄などの木製品が大量に出土しており、当時の人々がさまざまな木製品を使っていたことが分かります。特に馬鍬、鋤、鍬などの農具は、木と金属の違いはあるものの近年まで使われていたものと同様同じ形をしており、現在に至る農具の基本的な形が、この時代には既に出来上がっていたようです。

この馬鍬などが使われていたころから少し時代が下った7世紀末ごろに、池守遺跡のある星宮地区周辺から熊谷市の東部にかけての広い範囲に条里制（農地の区画整備）が敷かれ、県内最大規模の行田・熊谷条里が成立します。そしてこの広大な耕地は、昭和50年代に国道125号バイパスが開通するまで1千年以上もの間、県内最大の耕地であり続けました。

池守遺跡から出土したこの馬鍬などの木製農具は、1千400年以上も連続と続く星宮地区の農業の歴史を証明する貴重な遺物であるといえます。

（文化財保護課 中島洋一）

こぜに ちゃんが行く!

大堰自然の観察室

大堰自然の観察室は、利根大堰に設置されている「魚道」を遡上する魚を間近に見ることができる施設で、初夏はアユ、秋にはサケを見ることができるんだ。

昨年遡上したサケはなんと18,700匹。10年前は1,500匹だったことを考えると、サケにとっても優しい環境になってきたことが分かるね。これからサケが遡上する季節です。遠く太平洋から戻ってきたサケを目の前で見て、生命の神秘を思いっきり感じてくださいね。

このコーナーでは、行田の歴史や名所、名物などを行田ゼリーフライキャラクターのこぜにちゃんが分かりやすく紹介します。



編集・発行／行田市総合政策部広報広聴課  
TEL 5556-1111 FAX 5550-2116

今月の表紙

9月14日、行田市消防署で第42回行田市消防団消防操法大会が行われました。自動車ポンプの部と小型ポンプの部に14分団、6警備隊が参加し、日ごろの練習の成果を披露しました。消防団の皆さんが習得した操法技術は、災害発生時においても遺憾なく発揮されることでしょう。

- 市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当（内線318）まで。
- 市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。
- 市報をCD-Rに録音したものを希望者宅にお届けします。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当（内線318）までご連絡ください。

